◉駿河湾沼津久料港発➡西浦沖

大ダイフリークは要注目！
沼津でワールドカップ開催中

フィッシングライター／伊井泰洋 Yasuhiro Ii

「沼津で大きいマダイがけっこう釣れているんですよ」

近田編集部員からの情報を聞いたとき、秋ダイの季節になぜ？　という猜疑心が拭いきれなかった。秋といえばマダイの数釣りシーズンだが、春の乗っ込みとは違い大ダイがそうそう出る時期ではない。

しかし、魚磯丸の釣果を見ると9月19日に今シーズン最大の7・56キロを始め、22日には5.8キロと5.3キロ、26日は6.7キロ、27日には5.6キロと大ダイ続出、4キロ級も含めると連日のように良型が顔を見せ、ハリス切れのバラシも多発しているらしい。

こりゃ乗っ込みシーズンを超える大ダイラッシュじゃないですか？　いったい沼津沖で何が起こっているのだろう。

その謎を解き明かすために沼津久料港の魚磯丸を訪れたのは9月30日。前日29日にも7.5キロの大ダイが上がっており期待感はマシマシだ。

▲駿河湾沼津は今、大ダイラッシュに沸いている

その時は突然きた

集合時間の30分前、まだ暗いうちに船宿に着くと、すでに何人もの釣り人が支度をしていた。私も荷物を自分の車から船宿の軽トラに移し、指定された駐車場に車を停める。集合時間になって人がそろい、席決めのくじ引きが行われた。

この日はほとんどが常連さん、マダイ船の松崎英信船長は私向けに説明をしてくれた。

「ハリスは4号10メートルが基本だけど、多少伸ばすのは構いません。でも、ビシはタナより下へは下ろさないでください。タナ50メートルなら、投入後60メートルまで下ろして、コマセを振って50メートルに合わせたら、それより下ろさないようお願いしています」

テーパー仕掛けやウエイトスイベルは使ってもいいですか？　の問いには、どうぞ仕掛けは自由に工夫してくださいとのことだ。

ポイントは西浦沖で、久料港からは航程15分くらいと近い。タナは海面から55メートルとアナウンスがあった。

秋にしてはちょっと深いが、先月から大ダイが食っているのはこのポイントとのこと。もっと浅い場所を攻めることもあるが、そちらは型が小さくなるそうだ。

「反応が出てきました」のアナウンスに呼応するように右舷で竿が曲がった。ドラグから糸を出すほどではないが、鋭い引きで上がってきたのは1キロ弱のマダイだった。

▲大ダイが釣れているのは港から15分ほどの西浦沖

朝マヅメがチャンスかと思ったが、そうでもないようだ。船長に聞くと、大ダイが食ってくるのは7時過ぎだったり、9時くらいだったり時刻が一定しないとのこと。そのせいか、船上ものんびりムードで時間が過ぎていく。

そして7時少し前だった。

隣席の置き竿を何気なく眺めていると突然、ズン！　と竿が突っ込んだ。釣り人が竿を手にすると、糸がどんどん出ていく。これはマダイだろう、しかも大きい。

走るだけ走らせると糸の出が止まる。釣り人は慣れた竿さばきで魚を浮かしにかかった。余裕のヤリトリに見えたが、竿の曲がりがその大きさを物語っている。海面下に白い影がユラユラと浮いてくるのが見えた。タモに入ったのは5.5キロの良型だった。

乗っ込みシーズンで抱卵したマダイであれば余裕で6キロは超えているのではないかと思えるサイズだ。時計を見るとちょうど7時、それまで明確に出ていた魚探反応もまばらになっていたときのヒットだった。

▲この日はグラスソリッドの竿を使っている人が多かった

今期のレコードを更新

こんな良型が回遊しているなんて、いい日に取材にきた。私も釣りたい、と後半は気合を入れてまめにコマセを打ち返す。ハリスを伸ばしたり、ハリを軽くしたり、潮の速さに合わせてウエイトスイベルを交換してみたりなどの手を打つ。

そして待望のアタリがきたが、なんかボンヤリとした小さなアタリで引きもそれほど強くない。浮いてきたのはタイでもハナダイだった。

5.5キロが上がった後は、船で小型のマダイが2枚追加されり上がりの時間を迎える。

今日も良型マダイが出た。ここ最近の大ダイラッシュは何かの異変？　まさか富士山が噴火したりしない？　と船長にその理由を聞いてみた。

松崎船長の答えはあっさりとしたもので、

「西浦沖では4年に一度くらいこんな大型の群れの回遊が見られるんですよ」

という。

「4年前なんかもっと釣れていて、マダイ船が平日でも2隻が満船になることがありましたよ」と話す。大船長も、

「7年前だったかな、あんときも大ダイばかり釣れたなあ。今年も夏ごろからハリス切られたりして大ダイがきそうな雰囲気はあったよ」と話す。

いやあ寡聞にして知らなかった。4年に一度なんて、マダイがワールドカップでも開催しているのだろうか？　そりゃ盛り上がりますわな。

ちなみに、その4年に一度の大ダイ回遊はいつぐらいまで続くんですか？

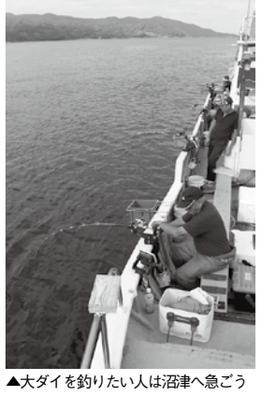
と聞いてみると、

「1カ月ちょっとかな。11月くらいまで」

との答えだった。

今シーズンの西浦沖マダイは、大型ゲットのチャンスというのは間違いなさそうだ。そして、この原稿を書いている取材翌々日には7.7キロが上がって、今期の最大レコードが更新されてしまった。大ダイラッシュは止まりそうもない。

本号発売時は4年に一度のマダイワールドカップも後半戦に入る。青物、ヒラメと釣り物の多い秋だが、マダイフリークは西浦沖に注目だ。


▲大ダイを釣りたい人は沼津へ急ごう

▼釣れれば大ダイばかり…というわけにはいかない

◉船宿 information

駿河湾沼津久料港
魚磯丸
☎055・942・3230
（詳細は巻末の情報欄参照）

松崎 英信船長

▶料金＝午前、午後マダイ乗合一人1万500円（エサ、コマセ、氷付き）。女性、子供割引あり
▶備考＝予約乗合。集合時間は予約時に確認。ほか泳がせ釣り乗合へも。各種仕立も受付

知っ得！ Tips and Tricks
竿工房　竿酔

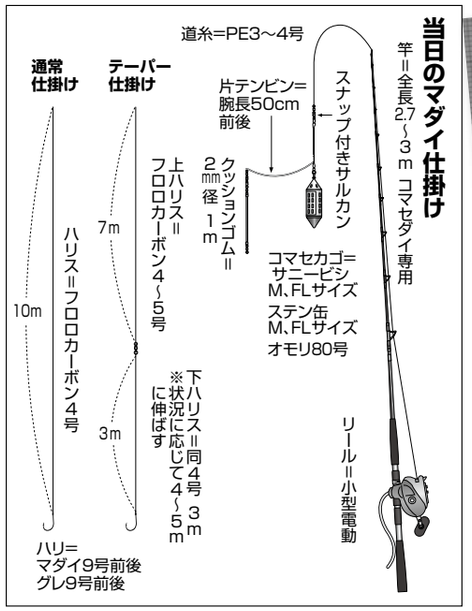
魚磯丸の久保田清船長は竿師でもある。受付の脇には様ざまなカスタムロッドが飾ってある。常連たちは船長が作った特注竿を使って、何枚もの大ダイを上げているという。

竿の硬軟や調子、長さや重さのほかブランクやスレッドのカラー、ガイドのタイプなど、釣り人の要望に応じた竿を作ってくれる。マダイ竿のみならず泳がせ竿や小物竿の要望にも沿うので、興味ある方は価格や納期など、久保田船長に問い合わせてみてほしい。

▲船長お手製のカスタムロッドがズラリ

Tackle Guide

コマセダイ専用竿のブランクは大まかにチューブラーとソリッドに分かれる。筆者は軽量でコマセを振ったときの抜けがよいチューブラーが好みだが、急激な突っ込みをしのぎやすい懐の深さを持つソリッドを愛好する人も多い。

この日のマダイ船ではソリッドブランクが目立った。これは魚磯丸船長のカスタムロッドを愛用している常連客が多いという理由もあるが、置き竿でアタリを待つ時間が比較的長い当地の釣りにフィットしているように思えた。

当日のマダイ仕掛け